

# 「普通に働く」を大事に

職場  
ルポ

— 「劇団四季」(四季株式会社) —



(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝



## 取材先データ

### 四季株式会社

〒225-8585 横浜市青葉区あざみ野1-24-7  
TEL 045-903-1141 FAX 045-903-8005  
<http://www.shiki.jp/>

- 代表取締役社長: 浅利慶太
- 設立: 1967(昭和42)年9月
- 資本金: 49725万円
- 社員数: 183人
- 事業内容: 演劇・ミュージカルの興行

## 就労支援機関データ

特定非営利活動法人

### 横浜メンタルサービスネットワーク

〒233-0002  
横浜市港南区上大岡西1-12-3 京浜ビル204  
TEL 045-841-2179 FAX 045-841-2189

### 神奈川障害者職業センター

〒252-031 相模原市南区桜台13-1  
TEL 042-745-3131 FAX 042-742-5789

Keyword : 障害者委託訓練、精神障害、サービス業、障害理解、ジョブコーチ、地域障害者職業センター

## POINT

- ① 障害があっても『普通に働く』
- ② 職場にキーマンを配置
- ③ メンタル面での支援



リトルマーメイド ©Disney

### ■ 仕事内容から 雇用する人材を考えた

『キャッツ』、『ライオンキング』、『マンマ・ミーア』、『オペラの怪人』、『リトルマーメイド』など、たくさんの感動の舞台を上演している「劇団四季」。全国に8つの専用劇場を持ち、年間の総公演回数は3000回以上を数える。劇団四季の本拠地、四季株式会社のオフィスと稽古場を有する四季芸術センターは、神奈川県の東京寄り、田園都市線あざみ野駅に近い住宅街の中にある。コンクリート打ちっぱなしのモダンな建物だ。

1953（昭和27）年に劇団を創立、1967年に株式会社。専用劇場での公演のほか、全国の小学校を訪問して『美しい日本語の話し方』教室を開催したり、生きる喜び、命の大切さを伝えるファミリーミュージカル「こころの劇場」に子どもたちを無料招待している。

舞台やさまざまな活動を支えるのは、俳優や演出家、技術スタッフのほか、経営セクションなど総勢1100人。おおまかな内訳は俳優600人、技術スタッフ300人、営業、広報、総務、経理などの経営部門で働く正社員が200人。その他、準契約社員やアルバイトが活躍している。

四季株式会社の総務部ではいま、4人の精神障害者が働く。仕事は施設管理



総務部 松澤響係長

で、掃除関係のほか、建物の修繕が必要などときは業者に依頼したり、稽古場である代々木アトリエの植木の手入れなども行う。

総務部係長の松澤響まつざわきょうさんは2009年に入社して1年間営業を担当。2010年に総務へ。2011年に障害者雇用の責任者になった。障害者雇用のきっかけは2006年、現在の本社と四季芸術センターの広大な建物が完成して、施設管理や清掃の人手が足りなくなったことが関係していたという。

「障害者雇用は法律で義務付けられていますので、会社としてどういう形で障害者を雇用できるのかを模索した結果、人が足りなかった営繕に配属することを決めたと聞いています。メインは施設管理ですが、建物には階段も多く、将来は業者との折衝もお願いしたいとの考えがありましたので、身体にハンディキャップのある障害者ではない人を、と『ぱーとなー』（横浜市総合保健医療財団の就

労支援センター）に相談をして、2009年に中山（後出）を含め、まず3人を雇用しました」

「ぱーとなー」は、精神障害者の支援に特化した、就労支援センターだ。そして、精神障害者を雇用するにあたって、躊躇ちゅうちゅうはなかったと聞いている。

「実際に気になったということはありません。劇団という性格上、一般の事業所のデスクワークとは雰囲気が違うと思いますので、気にしないで働けるのではないかと思います」

舞台は、個性をおつけ合って作り上げていく。だから、人それぞれ「違い」があつてあたり前という感覚があるのだろう。

4人の上司の総務部の中村邦彦さんは、「障害のある方々にも、『普通に働く』という考えの方と『私は障害を持っているから』という気持ちの方がいます。そして精神障害の方は外見からは障害がわかりませんから、同僚の何気ない言葉で傷ついてしまうこともあるでしょう。し



四季で働く障害者のまとめ役の中村邦彦さん



四季で働く久保田さん（前列左）、濱岡さん（右）、久保さん（後列左）、中山さん（中央）と、まとめ役の中村さん

かし、それは健常者も同じことです。あまり気にしないで、できるだけ普通に働いている方がいいのではと思います」

## 理解ある環境だから、働きやすい

4人は毎日こなす日課とともに、その日その日で違う仕事も入る。東京に大雪が降った日は、雪かきが大変だった。中山雅志さん、久保田志信さん、久保順弘さんは8時から17時までのフルタイムで、濱岡龍弘さんは9時から勤務に就く。濱岡さんは初めての就職で、2012年6月に入社した。

「障害があるので働けないと思っていたのですが、デイケアのスタッフさんや『トライ！』（神奈川県障害者委託訓練）の後押しがありました。ほかのところよ

りは働きやすいと聞いていたのですが、まわりの方たちも病気に関して理解がありません。休みがちなのですが、上司やまわりのみなさんが理解してくれて、ありがたいと思います。もうちょっと頑張つて、働き続けたいと思います」

久保田さんは、それまで働いていた仕事場が閉鎖になり、職探しをして2012年9月に入社した。

「あいさつをしつかりすることに気をつけています。上司や仲間とはいい関係ではないかと思えます。体調の面で問題があるときは相談に乗ってもらっています。会社から補助がいただけるので、消防設備士の資格取得に向けて勉強しています」

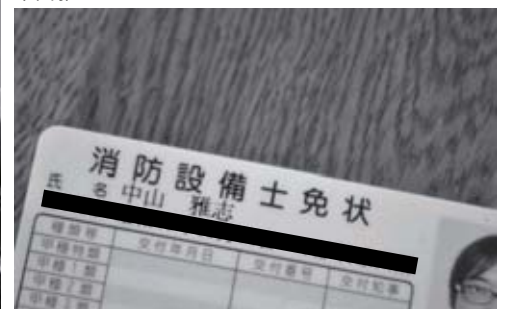
久保さんは2013年4月に入社した。仕事以外の目下の課題は太りすぎないようにすることだという。

「体重を落とさないと、と思っっています。以前働いていたところと比べると、上司も同僚もやさしくて、働く環境はすごくいいと思います。まだ教えられる立場で、仕事はわからないことだらけです。仕事をちゃんと覚えて人に教えられる立場になればと思います」

3人の先輩の中山雅志さんは、2009年から勤務している。

「以前、働いていた会社は倒産したのですが、自信になったのは、その倉庫の責任者から、『中山君はどこに行つて

消防設備士の資格を取得するなどして活躍する中山雅志さん



も通用する』といわれたことです。ここには仕事がしたいと思って入りました。最初は、障害者として見られるのかと思ったのですが、中村さんたちは、そのようなことなく接してくれました。私は障害者だと見られて働くのが一番ストレスがかかります。ミスをしたら厳しくしてくれたいのですが、自分のプラス志向が上がつていきます。家でごろごろしているより、ここで一生懸命働いていたほうがストレスがかかりません」

## WORKSHOP REPORT



オペラ座の怪人 撮影：堀勝志古



外回りの清掃作業をする久保順弘さん（左）と濱岡龍弘さん



中山さんに続いて、消防設備士の資格取得に挑戦したという久保田志信さん

休んだのは風邪を引いたときと腰を痛めたときだけだという。名刺には、防火・防災管理者とある。消防設備士の資格と同時に運転免許もとった。中山さんは3人に仕事を教え、相談にも乗る。

「濱岡君や久保君にどういうふう来接すればいいか、だいたいわかかってきて、個々に悩みがあったら、応じてあげられると思います。失敗は成功のもとなので、焦らずにやれば大丈夫だと話します。就労支援機関に希望することは、訓練期間中にフルタイムで働けるようなスタミナをつけるようなプログラムにしてほしいこと。また、それぞれの病状や悩みは違うので、そこをきちんと聞きながら、一人ひとりに合った就職先を探してほしいです」

上司の中村さんは、「同じことでも、

私と中山がいうのでは、受け止め方が大分違うようです。3人の教育係をしてもらっていますし、中山がいることで大変助かっています」と存在を認めている。

### メンタル面を 中心に支援

四季株式会社への就労支援は、最初は「ぱーとなー」が。その後「ぱーとなー」からNPO法人「横浜メンタルサービスネットワーク」につながり、神奈川県障害者職業センターのジョブコーチ支援が始まった。

横浜メンタルサービスネットワークの看護師・第1号ジョブコーチの柴友美さんは、精神障害の人たちの支援に長くかかわってきた。

「だれか就職希望者がいないかと声が

かかったとき、当法人が受託している神奈川県委託訓練『トライ!』を修了した濱岡さんをご紹介しました。まわりがいきいきと舞台稽古をしていることが、本人に働く意欲を感じさせるのではと思います。私は看護師だから特別なことをしているわけではなくて、彼らがうまく力を発揮できるように声かけをしたり、応援をしたりしています。『いつでも話を聞くからね』、『つらかったらいつでも電話してきてね』というメッセージを伝えるぐらいしかできないのではと思っていますが、大切に行っていることは、応援し続けることです」

濱岡さんの就職後に、神奈川県障害者職業センター・配置型ジョブコーチの千葉勇子さんが支援に入った。

「対人関係に気を付けることを訓練し



濱岡さんの支援にあたった柴友美さん（中央）と神奈川障害者職業センターの千葉勇子ジョブコーチ

てはいたのですが、ご本人は仕事が『できない』という劣等感を抱えていましたので、連携してメンタルの支援を行いました。四季さんは、ご本人が安定して生活ができるように柔軟に考えてくださいましたので、きちんと仕事をしていくことを指導していきました。また、こちらの方たちは規律がしっかりしていて、だれでも同じトーンできちんとあいさつをしてくれます。へだたりがないのが濱岡さんの安心感につながったのではないかと思います。事業所とご本人が理解しあえるのが一番。いまは月1回フォローアップをしています」

「トライ！」の就労準備科を修了した



久保さんの支援にも、柴さんと小幡祥子ジョブコーチ（神奈川障害者職業センター）らがあたった

久保さんは、実習に行った飲食店に就労して2年ほど働いたが、週40時間働きたいという希望があった。四季での採用が決定し、同じく神奈川障害者職業センター・ジョブコーチの小幡祥子さんが支援した。

「飲食店時代から支援を担当していましたが、週20時間の就労のペースはできていました。週40時間になるという体力的な疲れと、ご家庭での不安、将来への不安がありましたので、具体的な仕事については会社の人たちの助言をいただきながら、ご本人に自信をつけてもらうように支援をしました」

会社側は、就労支援機関との協力関係

を築いてきた。松澤さんは、「まだまだ障害のある方に関する知識は十分とはいえません。彼らが不安定なときは専門の方に入ってもらっていて、状況を把握をして手助けしてもらっています」

中村さんは、「働くうえで一番必要なことは、モチベーションだと思います。自分が自立して何とかやっていくのだという気持ちがある人のほうが継続できると思います。妄想が起きるなどの病気の状態は、われわれは経験がないのでわかりませんが、そういうところを理解しながら、逃げ、ばかりではだめではないかとか、ついついアドバイスをしてしまいます。見守るところとのバランスが難しいですね。家庭の事情を抱えて悩んでいる方は、なかなか立ち入ることはできないのですが、問題解決ができなくても傾聴することが大切だと思います」

## まずは共に働いてみることに

四季には、どのセクションで障害者雇用を拡大していくか、大変な面もある。松澤さんは、「本社でもっと雇用したいという思いはあるのですが、業務量と人数のバランスがあり、いまの4人で適正人数。長野県大田市にある装置や小道具類を保管する四季演劇資料センターで、人数を増やせればと思います」

精神障害者を雇用して5年。企業側か

## WORKSHOP REPORT



ウィキッド 撮影：荒井健

ら、これから障害者雇用を始める事業所へのメッセージをお願いした。

中村さんは、「統合失調症という病名でもそれぞれの病状があります。雇用される人について、どのような人なのか事前の確認はしっかりとされたほうがよいでしょう。誰もが携わる以前に詳しい知識を持っているわけではありません。求める職能とのミスマッチを防ぐ意味でも、情報の把握は重要です」

松澤さんは、「まず、共に働こうという意志を明確にもつことです。私は雇用してコミュニケーションをとっていくことで、どういう方なのかを病状を含めて理解していく。理解したうえで、どのよ



先輩として、仕事を教え、相談に乗るなど、教育係としても活躍する中山さん（右）だ

うに会社へ貢献していただけるかを考えます」

当事者として、中山さんからも。「精神障害の人は組織になじまないとお考えになり、手をあげられないのではないのでしょうか。そのようなことはありません。在職の4人は、グループの一員として活躍できていると思います」

就労支援機関から事業所へのメッセージ。千葉さんは、「初めて障害者を雇用する企業が、何を不安に思っているかをまずお聞きして、最初に調整の時間をいただいで、対象者の方とすり合わせてから、スタートできればと思います。精神障害の方の場合は障害が見えづらいうので、できるかぎり障害特性について、お伝えしたいと思います」

小幡さんは、「最初に要求されることが多くて、つまづく方が多いので、最初の一步はご本人のペースでと考えていただければと思います。採用される障害者の仕事のスピードに合わせて、様子を見ていただくことが大事ですね」

柴さんは、「ご本人の特性を企業にお伝えして調整するのですが、一番に『そんなに怖がらなくて大丈夫ですよ』とお伝えしたいです」

最後に、障害者職業カウンセラーとして、多くの企業と接している神奈川障害者職業センターの四方宣行さんに聞いた。

「四季さんは、障害者が安定して働くことができる体制ができていると思います。障害者雇用を現場任せにせず、総務部が取りまとめ、現場の責任者がいて、現場で先輩になる人がいるというように、キーマンを配置していただいています。新しく障害者雇用に取り組まれる企業は、十分な知識はないかもしれませんが、そういう体制を組んで受け入れることは可能だと思います。そうしていただくと、定着できるのではないのでしょうか」

4人はごく当たり前に、普通に働いている。こんな職場が広がってほしい。



四季で働く障害者の支援にあたった神奈川障害者職業センターの四方宣行カウンセラー（左）、小幡ジョブコーチ、千葉ジョブコーチ、横浜メンタルサービスネットワークの柴ジョブコーチ（右）